



飛行船の上のシンセサイザー弾き
難波弘之
文化出版局 (文庫)
(1/30刊・¥300)

古くからのSFファンで、大学時代には、キーボード・プレーヤーとして音楽の道に入り、ファースト・アルバム以降、一貫してSFをテーマに取り上げる、そんな、難波弘之初の(小説)作品集が本書。ファンジン等で発表されたものを改稿した、計八篇が収められている。基調は「夢」である。典型的な夢小説「トロイメライ」の他、異様な現実と、その答としての夢の図式は、全篇を通して窺うことができる。例えば、ある日世界の人間が、一部の落ちこぼれを残して消えてしまう「緑色の世界」なども、この図式に従っている。このやり方は、少々無理な部分があつて、しっくりこない作品も見られた。ただ、(中学のころ書いたという)事実上のデビュー作「青銅色の時代」を含め、一貫して流れるムードは、そのまま著者の音楽に反映されている。かつて、直截で、かなりキツイエッセイを書いていたという印象があつた分、この小説の静謐さに、少々意外な一面を感じる。

なお、同題のLP(RAL-8802)は、本書の標題作のみをイメージに、九曲をまとめたもの。個人的には、「飛行船モルト号」辺りが気に入っている。

(俊)